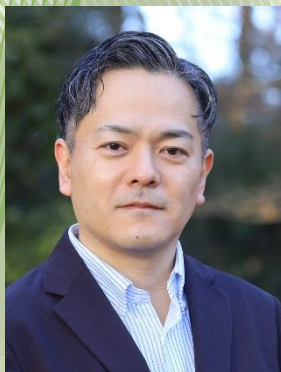


# 日米同盟と憲法

～2プラス2で日本はどうなる～

講師： 布施祐仁さん

ジャーナリスト



日付	12月4日(金) 13:00～15:30
会場	オンライン
参加人数	30人 参加費 800円
担当委員会	憲法委員会

## 内容報告

### 【セミナー内容】

布施氏は韓国ソウル滞在中であり、ソウルから講演していただいた。折しも韓国大統領が戒厳令を発布した翌日であり、前夜のソウルの動きなども冒頭で報告があった。

講演内容は11月に明らかになった台湾有事における日米共同作戦計画の内容である。これは南西諸島へのミサイル配備作戦であり、奄美大島、沖縄本島、宮古島、石垣島を第1列島線とし、これらの自衛隊基地に米軍の迎撃ミサイル、自衛隊の地対艦ミサイルを配備した上で、米軍はこれより東及びフィリピンに艦船を待機させ米軍指揮下で自衛隊が陸海空部隊を一元的に指揮する「統合作戦司令部」を2024年度末に創設して作戦を遂行しようとするものであった。この作戦計画は憲法9条との関係で「我が国を防衛するための必要最小限度の実力行使」を超えないかが問題となる。台湾有事は「存立危機事態」だとの麻生太郎氏の見解も問題である。また、米軍の作戦拠点となる三沢、横須賀、岩国、嘉手納航空基地は、中国からのミサイル攻撃を受ける危険が高いと米シンクタンクCSISから指摘されているという。米中ともに戦争にならないようにしているとのことであるが、「意図せぬ衝突」の危険もあるとの指摘があった。これに対し、2019年、ASEAN独自のインド太平洋構想が採択されていることを紹介し、対話と協力の方針を強調、また石橋湛山の「対米一辺倒は危険」という言葉もあり、日本の世論も台湾有事について「外交努力や経済制裁など非軍事の手段で対応する」「専守防衛」が過半数を超えていることから、外交努力と対話を継続することが政府には求められるということであった。

## その他の報告

著書として、「従属の代償」講談社新書(980円)が2024年9月19日に発売されている。

従属の代償  
日米軍事一体化の真実  
布施祐仁



### 自衛隊の「南西の壁」が完成

奄美大島(2019)、宮古島(2020)、石垣島(2023)に続き、今年3月に沖縄本島(勝連分屯地)にも陸上自衛隊の地対艦ミサイル部隊が配備された。これにより、中国軍艦船の接近を阻止する「南西の壁」が完成。

